

「ですから、みなさん、元気を出しなさい」 使徒言行録 27：13～26

目黒原町教会牧師 大塚 啓子

序 嵐の中、絶望的な状態のパウロたち

「しかし、ひどい暴風に悩まされたので…人々は積み荷を海に捨て始め…船具を投げ捨ててしまった。幾日もの間、太陽も星も見えず…助かる望みは全く消え失せようとしていた（使徒 27：18-20）。」コロナ禍の私たち、ワクチン接種は始まるも、予断を許さない状態→「ですから、皆さん、元気を出しなさい」なぜ？どうやって？

I 「神からの天使が…こう言われました（27：23-24）」

「パウロ、あなたは皇帝の前に出頭しなければならない（27：24）」→神のご計画

神のご計画＝「地の果てに至るまで、わたしの証人となる（使徒 1：8）」

主イエスの復活、昇天、聖霊の降臨（1章～2：13）

復活の主の証人として派遣される（2：14～8：49）

パウロの選びと異邦人伝道開始（9章～12章）

3回の宣教旅行（13章～21：16）

エルサレムでの逮捕とローマでの宣教（21：17～28章）

神の御心は、人間の思いや状況を超えて実現していく（聖霊の主導）。

神の言葉は「そのとおりになる」確かな言葉。

II 「わたしは神を信じています（27：25）」

パウロの立ち位置＝異邦人に福音を告げ知らせる務めを与えられた＝召命

（9：15、13：46-48、15：7-9、17：30、18：6、20：24、22：21、26：17、20）

主イエスとの出会いがパウロの原点（9章）→パウロは繰り返し、召命の出来事を語る（22章、26章）→原点に立ち帰ることで、信仰者としての生を全うできる

今、「わたしは神を信じています」と語ることの重要性

III 全国教会婦人会連合の歩み：立ち位置を明確にした歩み

機関誌「教会婦人」、期毎の主題、聖書を一書として読むこと、活動方針

結論 召命に立ち続ける者を神は励まし、御言葉を語られる

「恐れるな。語り続けよ…わたしがあなたと共にいる…この町には、わたしの民が大勢いるからだ。（18：9-10）」

「パウロ、恐れるな。あなたは皇帝の前に出頭しなければならない。神は、一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ。（27：24）」

→「ですから、皆さん、元気を出しなさい。」